

みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業のうち
農林水産研究の推進（委託プロジェクト研究）

革新的環境研究

東南アジアの小規模農家のための経済性を備えた温室効果ガス排出削減技術の開発

令和５年度 研究実績報告書

課題番号 (e-Radシステム課題 ID)	23812018
研究実施期間	令和５年度～令和９年度（５年間）
代表機関	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 農業環境研究部門
研究開発責任者	白戸 康人
研究開発責任者 連絡先	TEL : 029-838-8148
	FAX : 029-838-8199
	E-mail : yshirato@affrc.go.jp
共同研究機関	国立研究開発法人 国際農林水産業研究センター
	日本大学文理学部

＜別紙様式2＞研究実績報告書

令和5年度 みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業のうち
農林水産研究の推進（委託プロジェクト研究）
「東南アジアの小規模農家のための経済性を備えた温室効果ガス排出削減技術の開発」
研究実績報告書

I. 研究の進捗状況等

現地機関とのJoint Research Agreement締結の遅れや、試験地に選定した畜産農家に豚熱が発生したことなどにより、一部の計画に遅れが出ているが、そのような状況の中でも、様々な機会を利用して現地機関との打ち合わせを行い、必要な資材の輸送を進めるなど準備を進め、遅れを最小限にとどめることができていると考えている。次年度以降に遅れを取り戻すことにより、5年間の研究期間全体の目標を達成することができると考えている。

1. 高強度節水管理と深根性イネ等の組み合わせによるGHG排出削減技術の開発

品種・系統比較試験に用いる約10のイネ品種・系統を選定し、増殖を完了させる計画に対し、品種の選定は完了したが、一部の品種の増殖はR6年度に持ち越すこととなる。IR64及びIR64背景-3系統の輸出・増殖を完了させる計画に対し、契約の遅れからR6年度に持ち越すことになる。節水栽培の高強度水管理実施基準案については、現地機関と相談して複数の案を作成済みである。

2. 家畜ふん尿メタン発酵消化液の水稲作肥料としての利用時に排出されるGHG削減技術の開発

メコンデルタ地域において、BODセンサの導入に最適な養豚-水田農家を選定し、試験遂行について同意を得た。他方、11月に疾病（豚熱）が再発し、メタン発酵処理施設の稼働が停止していることから、新たに導入農家を選定する必要性が生じている状況。並行して、BODセンサの導入に必要な消化液の連続希釈装置を準備中、早期の完了を目指している。